

人に恵まれて、今があります 清瀬市子ども家庭部 部長 矢ヶ崎 直美さん



インタビュー File 02

40歳が近づいた頃、自然とキャリアアップを考えるようになり、係長試験を受けました。女性管理職のお手本が身近にいて、「足りないところは周りが補ってくれるから大丈夫」と言われ、安心できましたね。係長に配属された部署は女性が多く、みんなで声をかけ合って頑張る雰囲気にも助けられました。

要領が悪く、集団をまとめるのが苦手なので、課長試験を受けるのに係長としての経験不足を感じていました。しかし、そこでも上司に「地位に能力がついてくるんだ」と背中を押されました。

管理職になった私を、両親は誇りに思ってくれているようです。姪っ子たちが癒しの存在なので、ふれあうとリフレッシュできます。

仕事は人です。将来的にどこでつながるか分からないので、人間関係を大切にしてほしいと思います。私はどの人にも平等に、フラットな視点で関わるよう心掛けています。

女性は出産などもあるので、キャリアデザインを考えることは必要でしょう。でも、もし理想どおりにいかない時には軌道修正が大事。自分を責めないで、柔軟に対応していけば必ず次につながると思います。(高橋ゆ)

地域の住民とつながりたい 清瀬市地域包括ケア推進課 課長 関口 美智子さん



インタビュー File 03

管理職受験を考えた当時も女性管理職は少なく、さらに優秀な職員が大勢いる中で自分のできるのかと迷いました。上司に「あなたは管理職向きだからやるべきだ」と背中を押してもらったことから決めました。

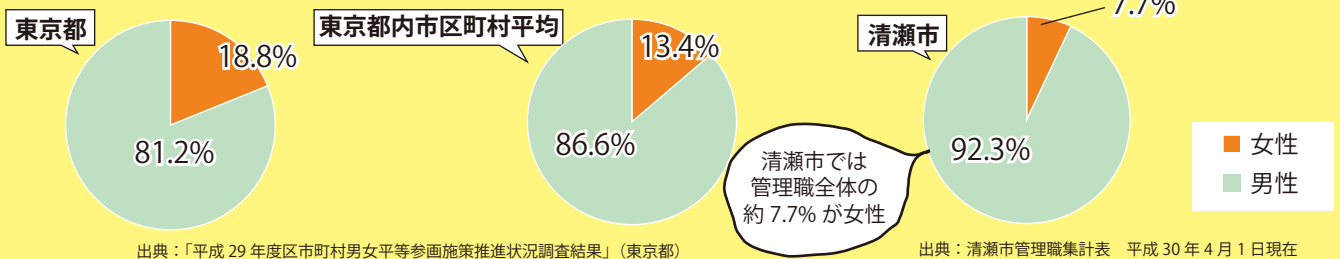
「おせっかいをやく」のが好きで、黙ってられない性格なので、福祉の仕事は自分にはうってつけだろうと思っています。学校の仕事から福祉に異動し、48歳の頃、仕事の内容を深く知りたいと思い「社会福祉士」の資格を取るため通信制の大学で学びました。その時期、短期集中で大学に通うスクーリングで出会った仲間や、

現在の仕事に関わる警察、消防、学校の先生方など、地域の交流を大事にしています。情報の連携を取ることが仕事をするのには重要です。地域の環境づくりをするというのが地域包括ケアシステムの大きな柱です。地域のおせっかいが、色々なつながりを作っていくと言われ始めています。

地域の半数を占める女性の視点というのは、とても重要だと考えます。一歩踏み出すのに迷いがある人には「やればできる、やらないと始まらない。女性の視点で変わるものもある」とお伝えしたいと思います。(高橋ひ)

自治体で働く女性管理職の割合って、どのくらい？

自治体【東京都・東京都内市区町村平均（東京都職員を除く）・清瀬市】で働く女性管理職の割合を比較しました。



みんなの助けがあるから楽しくできる 清瀬野塩団地自治会 会長 中原 輝子さん



インタビュー File 04

小さい頃から、家にはたくさんのお客さんが遊びに来ていたので、人と接することが好きでした。前会長が亡くなり、周りの方々から推されて自治会長をやらせてもらい、現在4年目になります。

自治会長をやっている特に苦労やストレスは感じません。皆さんと一緒にやってくれるし、私はお世辞が苦手ですストレートにもの言ってしまうのですが、親から言われているような感覚で受け止めてくれます。思ったことは正直に相手にきちんと話す。話し合いで終わったことは引き返さず、蒸し返さない。勤めている人も参加でき

るように会議は短く、などを心がけています。

自治会仲間も熱心さのあまり、コミュニケーションをとるのが難しい時もあります。でも、楽しくやることが会長の役目だと思うので、すぐに電話して話ができる関係をつないでいます。今、団地内は80歳以上の方や独り住まいの方が多いので一声かけたり、見回りをして、孤立を生まないようにしています。

人生は一度きりなので、楽しくやりたい。お風呂が大好きだから、一日を楽しく過ごし、自分への褒美として、お風呂の中で一息ついてから寝るようにしています。(高橋た)